OECD-FAO Agricultural Outlook: 2005-2014

Summary in Japanese

OECD-FAO 農業アウトルック：

日本語要約

世界の農業生産は今後 10 年間、過去 10 年間と比べてより緩やかに拡大すると見られる。しかし、特に開発途上国における経済情勢と人口増加により、世界の農産物の消費は拡大し続けるものと予測される。これは、今後 10 年間にわたって様々な国や商品の純貿易ポジションの変化に反映されるであろう。

しかし、農産物貿易の伸びは、依然として、非農産物のそれを下回っている。これは主に、高い貿易障壁が残っているためである。同時に、農産物貿易の中で南-南貿易の占める割合が高まっており、開発途上にある伝統的輸出国及び新興輸出国の輸出が増加している。

開発途上国の農産物輸入が伸びているが、その一部は生産コストが低い開発途上国からの輸入増加によるものである。その結果、世界の商品市場の競争は中期的には激化するものと見られる。これは、世界レベルでの著しい生産性向上と相まって、殆どの農産物の実質価格を更に押し下げるであろう。

実質価格への下げ圧力が作用している状況下では、農家は効率と生産性の向上に向けた努力を続けることを余儀なくされるだろう。また、そうした努力を妨げている政策が改革されれば、農家の利益となるだろう。他方で、実質価格の低下は、食料需要を満たすために輸入に依存する国々の利益となる可能性がある。

開発途上国全体の農業生産の伸びは、殆どの OECD 諸国のそれを上回っている。世界の農業生産に占める OECD 諸国の割合は、大部分のカテゴリーで減少している。生産性が持続して向上していることによって、ほぼ全ての国で生産増加につながっている。生産増加の他の要因としては、開発途上国における農地拡大が挙げられる。

.

世界の農業市場で開発途上国の重要性が高まっている背景には、需要の変化がある。人口及び所得の伸び、ならびに、都市化や食品嗜好の多様化は、新たな需要を生み出すとともに、動物性食品のシェアを伸ばし、食料消費の構成を変えるだろう。

OECD 諸国の成熟した市場では、食料需要の伸びは控えめなものになると見られている。需要の決定において、食品とその処理における安全性、品質、環境、動物愛護の要素は、価格や所得の変化よりも重要な役割を果たすようになってきている。

集中とグローバリゼーションの加速、食品チェーンのガバナンスにおける変化（商品規格や垂直的調整の役割の増大）に特徴付けられる現在進行中の食品産業の構造変革は、今後 10 年間、持続する見通しである。国内政策や貿易政策、政策改革に加えて、こうした構造変革は、農業市場及び貿易の長期見通しにおいて、重要性を増している。

本アウトルックには不確実性が無いわけではない。経済及び政策の状況は、本書が想定したものから変化していく可能性がある。特に、ドーハラウンドの結果が好ましいものとなれば、貿易の見通しは改善されるだろう。また、穀物在庫は記録的に低い水準となると予測されているが、これは、穀物価格をより不安定にし、グローバルな食料セキュリティーに影響を及ぼす可能性がある。世界の市場で中国及びインドの重要性が高まっており、これらの大国の需要あるいは供給に小さなショックが加わっただけで、大きな調整が必要となる可能性がある。また、動物の病気の発生も不確実性の重要な要因となっている。

© OECD/FAO 2005

本要約は OECD の公式翻訳ではありません。

本要約の転載は、OECD の著作権と原書名を明記することを条件に許可されます。

多言語版要約は、英語とフランス語で発表された OECD 出版物の抄録を翻訳したものです。OECD オンラインブックショップから無料でダウンロード可能です。

www.oecd.org/bookshop/

お問い合わせは OECD 広報局版権・翻訳ユニットまでお願いいたします。

rights@oecd.org

Fax: +33 (0)1 45 24 13 91

OECD Rights and Translation unit (PAC)
2 rue André-Pascal
75116 Paris
France

ウェブサイト www.oecd.org/rights/